

平成28年度豆類振興事業助成金(試験研究)の成果概要の要約

⑨課題:能登大納言小豆の作型に対応した生産安定技術の開発

代表者:石川県農林総合研究センター農業試験場 主任研究員 小浦場卓

目的

夏期の高温による減収リスクを回避する早播き摘心栽培技術の確立と、小豆栽培に適した緑肥を始め地域有機物資源の活用による土壌改良技術の確立を行うことを目的とした。

成果

①早播き摘心栽培における疎植栽培の検討

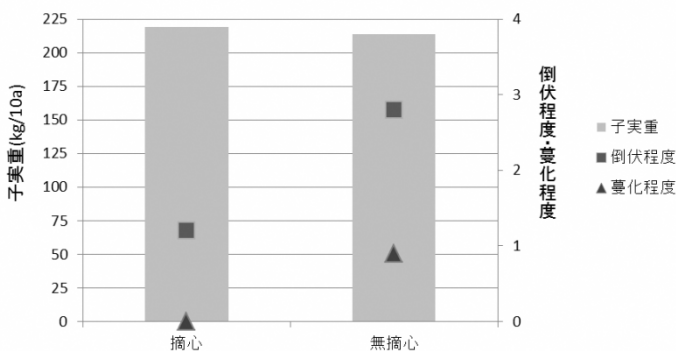
・疎植栽培により、草高が低くなり、分枝数・分枝節数が多くなったものの、倒伏程度および蔓化程度への影響は判然としなかった。

②大豆摘心機による機械摘心の実用性の検討

・大豆摘心機により100%の株が摘心でき、蔓化の発生は見られなくなり、倒伏は軽減した。

③越冬緑肥と竹チップ等の効果の検証

・越冬緑肥の効果と竹チップ等の効果を検証したところ、どちらも単年の施用では明らかな土壌改良効果はみられなかった。



子実重および倒伏・蔓化程度
(②大豆摘心機による機械摘心の実用性の検討)



大豆摘心機による摘心作業の様子